

## 1 学校教育目標

- 思いやりのある子 よりよい生活を目指して相手を尊重し、助け合う子
- 考える子 様々な問題を解決するために、多様な考えをもつ子
- たくましい子 困難に直面してもあきらめず、より高い目標に向かって努力し続ける心と体をもつ子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「生き抜く力」を身に付けさせる学校</li> <li>○豊かな心を醸成できる学校</li> <li>○確かな学力を身に付けられる学校</li> <li>○強く健やかな心と身体が育つ学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎思いやりの気持ちをもち、人権を尊重し合える児童</li> <li>○目標やめあての達成をめざして、主体的に取組を続ける児童</li> <li>○人や社会に迷惑や不快感を与えず、規範意識をもって行動する児童</li> <li>○基礎的、基本的な学力を身に付けた児童</li> <li>○進んで運動に親しみ、心身を鍛える健康な児童</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎教育に対して、熱意をもち謙虚な姿勢で学び続ける教師</li> <li>○児童に対して、笑顔で愛あふれる教師</li> <li>○自己に対して、向上心をもって職責を果たす教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 学校の現状

令和7年度 児童数 254名 12学級 創立92周年の伝統校である。

【児童】思いやりがあり、素直で従順な児童が多く、学習や諸活動においては真面目に取り組む。落ち着いた態度で学校生活を送っている。運動会や文化的行事等では、目標に向かって努力や協力することで達成感や満足感を味わい、自己肯定感を少しずつ高めている。区学力調査の通過率は、目標の82%以上を上回り83.9%という結果であった。

【教職員】学校長の経営方針を受け、教職員は教育実践に前向きに取り組んでおり、組織内の役割を的確に果たそうと努力している。また、小中連携・校内授業力向上研修・年次研修・区内外他校研究発表・OJT(若梅塾)・教科指導専門員の指導などにより日々研修を積んでいる。

【保護者、地域】親子四代、三代にわたって在籍する家庭が多く、保護者・地域とも学校に協力的である。保護者・地域・開かれた学校づくり協議会の方々との連携事業を継続するとともに健全育成の向上を図っている。また様々な教育活動の取組に対し、本校の成果を評価し期待度も高い。

### 2 前年度の成果と課題

**重点的な取組事項－1 学力向上(基礎的・基本的事項の定着 思考力・判断力・表現力の育成)**

- 数値目標 令和6年4月実施 区学力調査結果 2教科平均通過率：82%以上
- 実施結果 令和6年4月結果 2教科平均通過率：83.9%（国語88.5%・算数79.4%）

通過率は、目標の82%を上回ることができた。これは、学力向上の取組であるAIドリルを活用した朝学習、授業、放課後補習、夏季学習教室、家庭学習、また校長に指名された教員による示範授業を通じた研修や算数の授業における1年生からの少人数指導、また3・4年生を中心とするそだち指導の成果であると考えられる。学習意識は、全項目で区平均を下回っているものの、前年度比では肯定的回答が全体的に上昇しているため、児童が主体的に学び続ける姿勢・態度がさらに育っていけば、学力も伸びてくると期待できる。児童が目標や目的を意識し、自ら問題解決に向かっていく姿勢が身につくように、教師が授業改善を図っていくことが課題である。

### **重点的な取組事項－2 教師の授業力向上(小・中連携、校内OJT、巡回指導等)**

- 数値目標：校内研究、小中連携合同研究会、校内OJT、区内外他校研究授業、足立スタンダードによる授業力向上  
教員評価「授業力向上の実感」80%以上 児童アンケート「授業が分かりやすい」90%以上

- 実施結果：教員評価「授業力向上の実感」91.0% 児童アンケート「授業が分かりやすい」90.0%

小中連携（梅一・島根・十中）合同研究会を7回実施した。他校の教員と互いに授業を参観し合い、進め方や手立て等を意見交換し合うことで授業力向上につながった。

校内OJT（若梅塾）は、年間13回実施した。若手教員の悩みに応じて先輩教員が研修テーマを設定し、学習指導や生活指導、行事の取組方、校務分掌等、教材分析や対応、運営の仕方を指導・助言したり、教員が相互に学び合ったりして、指導力を高め合う雰囲気が醸成された。また、主幹・主任教諭を中心とする若手教員を含めた3人組研究グループを編成し、指導案作成や校内公開授業を実施したり、毎月お互いの授業を参観し合い、放課後に授業の振り返りを話し合ったりした。先輩教員から学ぶ若手教員はもちろんのこと、経験値から指導・助言を求められる中堅・ベテラン教員にとってもより深い教材分析・教材研究の機会が得られ、全体の授業力向上につながった。

教科指導専門員による巡回指導は、若手教員や他区からの転入教員を中心に行った。どの教員も足立スタンダードに基づいた授業が定着するように授業改善を図ることができた。

### **重点的な取組事項－3 心身の健康推進（保護者・地域等との連携）**

- 数値目標：基本的な生活習慣の定着 いじめの早期発見と適切な対応 不登校対応 事故の未然防止 達成率80%以上

- 実施結果：概ね良好

生活面の児童アンケートでは、「挨拶」80.6%「言葉遣い」73.5%「早寝、早起き、朝ごはん」79.1%の肯定的評価であった。また、体育では、89.9%の児童が「授業に楽しく取り組めた」と答え、74.5%の児童が体力の向上を実感していた。今年度も講師を招聘して、走り方や投げ方等の身体の使い方を学び、児童はもちろん教員にとっても有意義な研修となった。また、体力調査に向けて体育主任を講師として、指導者講習会を行った。そこで得た指導技術を基に、各担任が跳躍力や柔軟性を高めるための体育授業を実施した。結果として、学校全体で、都平均、区平均を上回った。

「いじめの早期発見と適切な対応、不登校の対応や見逃しゼロへの取り組み」は、教員評価で「よくできた・できた」が達成率100%であった。また、学校事故の未然防止に向けて児童への安全指導、教員による安全点検を毎月実施した。

保護者・地域との連携では、計画していた学校行事や学校公開を予定通り実施した。運動会や展覧会等の全校行事では、子供たちが目標をもって意欲的に取り組み、一人一人が全力を尽くす姿や仲間と協力し合う姿、また発想豊かな個性的な作品が見られた。

開かれた学校づくり協議会の活動は、芝生グリーンプロジェクト、親子ふれあい華道教室、親子盆踊り体験、芝の上の映画会等を実施し、子供たちにとって豊かな体験活動ができた。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○		
2	教師の授業力向上	○	○	○		
3	心身の健康推進	○	○	○		

## 5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上 (知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力・人間性)</li> </ul>		学力調査 85% 学力年度末 80%	学力調査 85.9% 学力年度末 87.3%	国語・算数とも目標通過率を上回る結果が得られた。意識調査からも分かるように児童が少しずつ主体的な学習態度に変容してきたことや教員の授業力向上がその要因と考えられるが、学年差・教科差が課題である。				○	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全学年 全教科	毎日	<ul style="list-style-type: none"> <li>足立スタンダード虎の巻に基づく授業</li> <li>SP表に基づく授業改善プラン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>単元テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>足立スタンダードによる授業 90%以上</li> <li>単元テスト 85%以上</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価 84.1%	全教員が足立スタンダード虎の巻を意識しながら、問題解決を中心とした授業スタイルを確立していくことを目指す	○

2 新規	校内研究	全学年	研究授業3回	学力向上の課題から研究主題を設定する。低・中・高の各分科会と研究部で指導案検討のうえ、研究授業・研究協議を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査結果</li> <li>児童意識調査</li> <li>教員自己評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査通過率85%以上</li> <li>児童意識調査「授業が分かりやすい」90%以上</li> <li>教員肯定的評価「校内研究による授業力向上」90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童意識調査「授業が分かりやすい」89.3%</li> <li>教員自己評価の肯定的評価「校内研究による授業力向上」100%</li> </ul>	「すすんで自分の考えを表現する児童の育成」を研究主題とし、研究推進部を中心に各分科会が研究授業における講師の指導を受け授業改善を図る契機となった。	○
3 継続	朝学習 チャレンジ	全学年 国語・算数	週4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員</li> <li>読書カードを活用して児童一人月平均5冊以上の推進</li> <li>漢字練習</li> <li>AIドリルを活用して算数の苦手問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書カード</li> <li>ミニ漢字テスト</li> <li>問題の正答率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年に応じた目標冊数読破</li> <li>全問正解（間違いは直せば正答とする）</li> </ul>	AIドリルを中心に朝学習に取り組み、月の平均解答数は350以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書への関心は前年度より児童は+4.6、教員は+8.3に上昇しているが、図書館支援員と連携して本の紹介や読み聞かせ等を通してさらに奨励していく。</li> </ul>	○
4 継続	AIドリルを活用した放課後補習教室	個別指導を要する児童 算数	放課後、平均月1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員</li> <li>単元の学習内容の定着を図るため、AIドリルを活用して苦手な問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間内に行う問題の正答率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全問正解（間違いは直せば正答とする）</li> </ul>	1月末までに10回実施した。目標はおおむねクリアできた。	AIドリルの活用をさらに推進し、個別のつまずきの解消につなげていく。	○
5 継続	AIドリルを活用した夏季学習教室	個別指導を要する児童 国語・算数	夏季休業中の10日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員</li> <li>AIドリルを活用し苦手な問題に取り組む。</li> <li>各活動、ドリル学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間内に行う問題の正答率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全問正解（間違いは直せば正答とする）</li> </ul>	夏季学習教室を10日間実施し、目標はおおむねクリアできた。	AIドリルを積極的に活用する児童が増え、成果として表れている。	○
6 継続	話し合い活動の充実	全児童 各教科・領域	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員</li> <li>話し合い活動により自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の観察や児童のノート等から見取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自己評価「考えが深まった児童」80%以上</li> <li>児童アンケート「話し合いによる学び」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自己評価の肯定的評価93.9%</li> <li>児童意識調査「話し合いによる学び」79.8%</li> </ul>	主体的・対話的で深い学びの授業展開に重点を置き授業改善を図っていく。	○

7 継続	思考力・判断力・表現力の向上	全児童教育活動全般	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員</li> <li>・知識・技能の活用を図る学習活動</li> <li>・自分の考えを書く活動</li> <li>・文章を要約する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のワークテスト結果</li> <li>・授業中の観察や児童の作品・ノート、発表等から見取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテストの結果80%以上</li> <li>・教員自己評価「思考力・判断力・表現力の達成率」80%以上</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価58.3%	授業の基本的な進め方として、足立スタンダードを徹底していく。	△
8 継続	I C T機器の活用	全児童各教科・領域	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員</li> <li>・I C T機器の活用方法についての研修会を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I C T機器を授業で効果的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価「タブレット、AIドリル等の効果的な活用」80%以上</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価85.7%	教員によって差はあるが、全体的にI C T機器を積極的に活用し、効果的な授業展開に努めている。	○

<b>重点的な取組事項－2</b>		教師の授業力向上（授業力向上研修。小中連携合同研修会、校内OJT、区内外研究発表参観、巡回指導等）			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の授業力向上（授業力向上研修、十中・島根小との連携推進、校内OJT、巡回指導等）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価「授業力向上研修、小中連携合同研究会、校内OJT・区内外研究会、教科指導専門員の指導等による授業力向上」80%以上</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価98.2%	自主的、主体的な学習態度が身に付くようさらに授業力向上を図っていく。	○
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
校内研究（授業力向上）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価「校内研修による授業力向上」80%以上</li> <li>・「足立スタンダードによる授業」90%以上</li> <li>・児童アンケート「授業が分かりやすい」80%以上</li> <li>・「先生に質問しやすい」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任教諭による国語、社会の示範授業及び協議会</li> <li>・発問、板書等の工夫、I C T機器の活用</li> <li>・足立スタンダードの徹底</li> <li>・学習規律の徹底</li> <li>・授業観察</li> <li>・教科指導専門員の指導等</li> <li>・校内OJT</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価の肯定的評価「校内研究による授業力向上」100%</li> <li>・足立スタンダードによる授業100%</li> <li>・児童アンケート「授業が分かりやすい」89.3%「分からない場合に質問できる」76.3%</li> </ul>	「すすんで自分の考えを表現する児童の育成」を研究主題とし、講師を招聘して指導を受けたことを実践にいかすことができた。また区小研や他校研究発表に積極的に参加し、自己研鑽を継続している。	○

小中連携合同研究会の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間7回の3校合同研究会</li> <li>教員自己評価「小中連携による授業力の向上」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間7回の合同研究会</li> <li>十中教員による児童の勉共会実施</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価「小中連携による授業力向上」100%	小中の教員が指導案検討や研究協議会を通して学び合う機会が授業改善に生かされている。	◎
校内OJT「若梅塾」	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職層、校務分掌に応じてベテラン、中堅教員による「若梅塾」の実施</li> <li>教員自己評価「校内OJTによる指導力の向上」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間13回、管理職、主幹、主任教諭を講師役として、若手教員の要望に応じたテーマに沿ってミニ研修会、アレルギー対応、体力向上等の各種研修会の実施</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価「校内OJT 若梅塾による指導力向上」100%	若手教員から年度始めに日常的な悩みや希望のテーマをアンケートで取り、その要望に応じて主幹、主任教諭がミニ研修会を実施したことで即実践に生かすことができた。	◎
区内外の研究会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内外の研究会参加各教員2回以上</li> <li>教員自己評価「区小研及び区内外研究発表会参加による授業改善の成果」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区小研参加</li> <li>区内外の研究会参加</li> <li>各種研修会参加</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価「区小研及び区内外研究発表会参加による授業改善の成果」92.9%	区小研には、毎回全教員が参加し、各部での研究、研修から得た指導を実践に生かした。また他校研究発表にも積極的に参加し自己研鑽を続けている。	○

<b>重点的な取組事項－3</b>		心身の健康推進（保護者・地域等との連携）			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者・地域と連携し、健康で明るく生活できる児童の育成</li> <li>健康教育・安全教育の推進を図り、安心・安全な学校づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員自己評価「いじめ未然防止、初期対応」「不登校対応」90%以上</li> <li>「体力調査結果からの取組」</li> <li>児童アンケート「基本的生活習慣」80%以上</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価「いじめの未然防止、早期発見と適切な対応」100%「児童や保護者を孤立させない的確、丁寧な不登校対応」100%	いじめ防止対策、不登校対策の校内委員会を毎月実施し、今後も未然防止や適切な対応に努めていく。	○	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価「児童が道徳的価値について考えをもてる授業」80%以上</li> <li>・児童アンケート「道徳の授業で自分の考えをもつことができる児童」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業改善</li> <li>・道徳授業地区公開講座</li> <li>・人権標語づくり</li> <li>・ありがとうカード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価の肯定的評価「道徳的価値について話し合い活動を展開する授業」91.7%</li> <li>・児童アンケート「自分の考えをもつことができた」81.4%</li> </ul>	「思いやり」や「感謝」の心を育てていくために、今後も多様な価値観を尊重し、人権感覚を身に付けさせていく。	○
学校図書館基本計画の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価、児童アンケート「1か月平均5冊以上読書」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の年間読破目標設定</li> <li>・読書カード活用</li> <li>・図書館支援員と連携して啓発</li> </ul>	教員自己評価の肯定的評価「1か月に5冊以上の読書」83.3%	昨年度比で8.3%上昇しているが、学年差があるのでさらに図書環境を充実させていく。	○
体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価「体育授業改善」「体力調査結果を踏まえた取組成果」80%以上</li> <li>・児童アンケート「体育の授業に楽しく取り組めた」「体力調査や学習カード等から記録が伸びた」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上指導者講習</li> <li>・体育授業の改善</li> <li>・ムキムキタイム、チャレンジタイム、梅一サーキット等で握力や持久力、握力、反復横跳びを強化</li> <li>・学習カード活用</li> <li>・業間運動の実施「長縄・短縄」等の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価の肯定的評価「体育科の授業改善」72.7%「体力調査の結果から体力向上の取組」100%</li> <li>・児童アンケート「体育の授業に楽しく取り組めた」88.9%「体力調査や各領域で記録が伸びた」74.7%</li> </ul>	学校全体のTスコアは都や区の平均を上回っている。特に持久力や投力を強化していくため、縦割り班ムキムキタイムや長縄チャレンジタイムを充実させる。	○
生活規律の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価「挨拶、感謝、礼儀、謝罪、返事の習慣化」「丁寧な言葉遣い」「家庭学習習慣」80%以上</li> <li>・児童アンケート「あいさつ」「丁寧な言葉づかい」「早寝・早起き・朝ご飯」「家庭学習習慣」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携した生活規律の定着</li> <li>・生活リズムカード活用年間3回</li> <li>・家庭学習の習慣化</li> <li>・食育の指導</li> <li>・「オアシスハ」の推進</li> <li>・各学年、代表委員による挨拶運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自己評価の肯定的評価「挨拶・感謝・礼儀・謝罪・返事の習慣化」「丁寧な言葉遣い」75%</li> <li>・児童アンケート「相手に伝わる挨拶や礼儀」「丁寧な言葉遣い」80.8%「早寝早起き朝ご飯」77.5%「家庭学習習慣」75.5%</li> </ul>	保護者、地域にも実態の理解、取組の協力を求め、基本的な生活習慣や対人コミュニケーションの基礎を培っていく。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 〈学力向上アクションプランについて〉

##### 【成果】

区学力調査の通過率は、目標の85%にやや届かず84.7%であったが、児童の学習意識調査では、「1か月に本を2冊以上読む」と「将来の夢や目標をもっている」の項目で区の平均を上回った。また前年比で「学校の授業が分かる」+2.2ポイント、「宿題がないときでも家で勉強する」+1.0ポイント上昇した。その要因は、生活全体において、児童に具体化した取組目標・めあてをもたせ、達成するまで継続的に努力を続ける姿勢・態度を

年度当初から各教員が児童に意識づけしてきたことや今年度から新たに始めた校内研究「進んで自分の考えを表現する児童の育成」に取り組んできたことが挙げられる。

#### 【課題・対策】

- ・国語科の通過率は目標の85%を上回ったが、算数科の通過率は前年度比では+4.1%と上昇したものの83.5%であった。児童の学習意欲は調査結果や各教員から見る児童の実態からも伸びているので、算数少人数担当教員を中心に各学年の教材分析や、教材準備をより丁寧に行うとともに、既習事項の定着を図るためにAIドリルを活用した演習を繰り返し行う。また効果的な児童のコース分けを考察し、組織的な協働体制を整備する。
- ・足立スタンダードに基づいた問題解決型の授業展開を徹底していくため、授業観察や教員間の授業参観による指導・助言を計画的・組織的に行う。また教職歴5年未満の教員や他区からの転入教員に教科指導専門員による指導を受けさせる。
- ・校内研究で講師を招聘し、研究主題に迫る授業の在り方について指導を受け、実践に結び付けていく。また若梅塾（校内OJT）を毎月計画し、主幹、主任教諭が若手教員の悩み解消に応じるミニ研修会を行う。

#### (2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では、『生き抜く力』の基礎として、良好な人間関係を構築していくために、「オ：はようございます」「ア：りがとうございます」「シ：つれいします」「ス：みません（ごめんなさい）」「ハ：い」の頭文字を取って「オ・ア・シ・ス・ハ」を合言葉にしています。これはつまり〈挨拶〉〈感謝〉〈礼儀〉〈謝罪〉〈返事〉をはっきりした言葉や態度で相手にしっかり伝えられる子供たちに育てていきたいという願いであり、また教育の根幹と考えていることです。子供たちの健全育成の基本的なことでもありますから、学校だけでなく保護者、地域の皆様にもご理解・ご協力をいただきながら一緒に子供たちに習慣化させていきたいと思えます。人として当たり前のことをまずは大人が範を示していくことで子供たちに多大な影響を与えていくものと考えます。

#### (3) その他（学校教育活動全般について）

開かれた学校づくり協議会・保護者・地域の皆様によるご協力のもと、「芝生グリーンプロジェクト」「華道教室」「盆踊り体験」「芝の上の映画会」を毎年実施しています。また「日本の伝統文化に触れ、礼儀を学ぶ」というテーマで、西新井警察署にもご協力いただき、剣道・柔道の実践見学や礼儀作法、子供たちが実際に打ったり技をかけたりする機会も設けました。このような様々な体験活動を通して子供たちに豊かな心が育まれていきますので、引き続き皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。